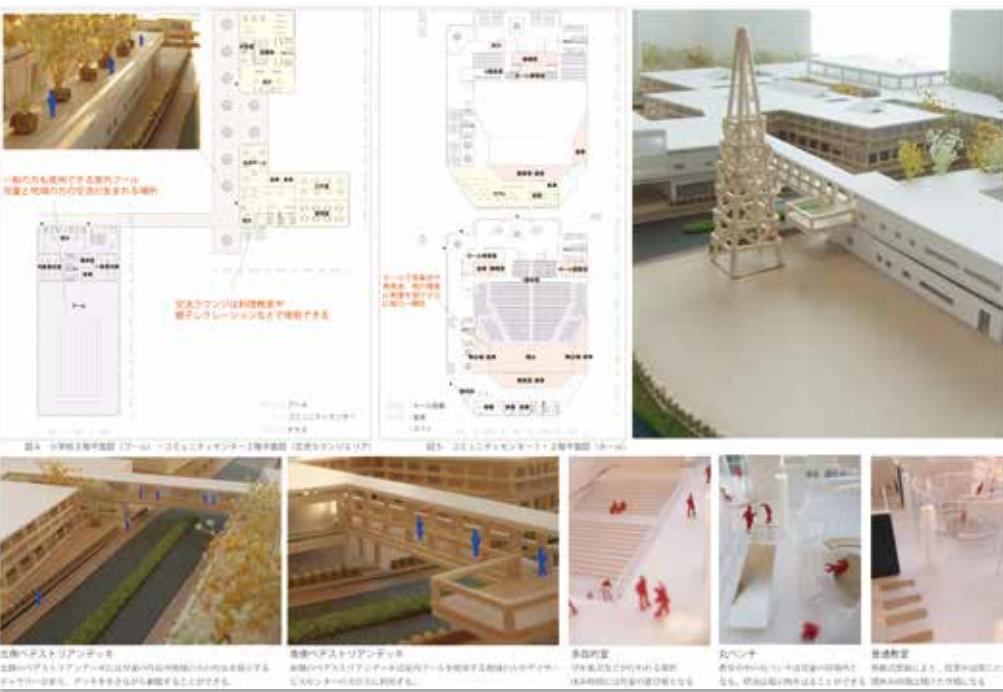


学びの場が外へと広がる小学校およびコミュニティセンターの設計

北野 康太
(きたの こうた)

千葉工業大学
工学部
デザイン科学科



講評

突出したテーマに頼るのでは無く、真新しいプログラムではないテーマを再度見直し、細やかなコンセプトで構成し、実践的な設計に取り組んだ4年間の集大成的な作品であり、作者の真摯に建築へ取り組む姿勢がわかる良い作品です。

近年開設された新船橋駅を中心に開発が急速に進み、新たなコミュニティが形成されるであろう地に於いて、子どもの成長・教育とそれを取り巻く地域住民の見守りの目、また生涯学習を通じての地域住民同士の交流の啓発を「5つのKAIAKA～開花・開化・諧和・誘化」のコンセプトを元に小学校を中心としたコミュニティセンターとしてきめ細かく計画され、計画図に落とし込まれています。しかし更に、この計画の中に障害、高齢など弱者への十分な配慮を検討されると子ども達が次なる6つめの介化（助ける、補佐する）を学ぶ場の形成も出来たのではないかと思います。

（審査委員：海老原 智子）



教育において、ゆとり教育や脱ゆとり教育などソフト面の政策はとられてきたが、期待通りの結果が得られていないのが現状である。背景にあるのは、ハード面の改善が不十分であることだと考えた。そこで、小学校の外にも児童の知的好奇心を刺激する空間デザインを広げることで、学びの場が小学校の外へと広がる提案を行った。小学校に隣接するコミュニティセンターを設けることで、コミュニティセンター内施設での体験や活動を通して、小学校内の活動では得られないものを得ることである。つまり、センターは第2の学びの場となる。